



2月 園だより



心も体もぽかぽか おはよう親子マラソン

園長 立石 晃子

子供たちの植えたクロッカスの芽が土からちょっぴり芽を出しました。先日は朝の迎え入れで園門に立っていたところ、柿の木にメジロがとまり、寒い中でも少しずつ春の訪れを感じられるようになりました。1月末からインフルエンザの流行で学級閉鎖が続く、保護者の皆様にはお子様の健康管理のご協力をいただいております。ありがとうございます。引き続きよろしく願いいたします。

園では1月21日(月)から「おはよう親子マラソン」が始まりました。寒空の下、園庭に子供たちと保護者の皆様が集まり、準備体操をし、プチニコット(コーディネーショントレーニングの「くの字」「Sの字」運動や「ラディアン」)も行ってから走り始めています。年少・年中組は園庭で走りますが、年長組は幼稚園・汐入小学校の敷地の周りを走ります。区内幼稚園で唯一、歩道が整備され安全が確保されている南千住第二幼稚園周辺だからこそできるマラソンです。マラソンもコーディネーショントレーニングの効果でしょうか、年少・年中組の子供たちは音楽が流れるおよそ10分の間、張り切って楽しそうに走っています。友達が転ぶと「大丈夫？」と声を掛け服の汚れを払ってあげたり、友達を誘い「一緒に走ろう！」と手をつないで走ったりといった微笑ましい姿が見られています。先日は年長組と一緒に外周を走ってきましたが、子供たちは諦めそうになっても踏ん張り、一周を走り切っていました。年長児は「(一周では)余裕！二周走りたい！」と意気込み、先日から二周に挑戦しています。

私は運動が得意ではないのですが、担任として南千住第二幼稚園に着任していたときにマラソンを行うことになり、「子供たちの先頭を走れるようにならなくては。」と走ることを始めてから、マラソンが好きになりました。スピードは出ませんし長距離も走れないのですが、その日の空の色、気温、景色を見たり感じたりしながら走ることが楽しいです。数年前、友人に誘われたことをきっかけに始めた皇居ランも趣味の一つとなっています。

今年の大河ドラマ「いだてん」はマラソンがテーマです。主人公・金栗四三さんの言葉に「体力・気力・努力」があります。順番が大切だそうで、まずは健康な体、その上で目標をもち気力が高まり、そしてはじめて努力ができる、ということだそうです。この「おはよう親子マラソン」で楽しく体を動かし、心も体も温まりながら健康な体をつくり、物事へ向かう気力と努力の礎を築けるようにしていきましょう。

楽しいこといっぱい！子供たちの園生活

< 3 歳もも組・りんご組 >

寒くてもげんきいっぱい！友達と一緒にだと楽しいね！

おはよう親子マラソンが始まり、お家の方や友達と一緒に走る楽しみを感じ始めている年少組です。戸外遊びを楽しんでいた風の強いある日、手作り凧で遊んでいると風に飛ばされて、園門の桜の木のでっぺんにひっかかってしまいました。すると男の子数名が「大変だ、どうしよう。」と集まってきました。「消防車に来てもらう？」「ジャングルジムからジャンプしてみようよ。」と言いながらみんなでジャンプ。「梯子は？」「それじゃあ届かないよ。」「じゃあ、長いの持ってこようよ。」「ロープに何か付けて投げてみる？」と相談を始めたのです。自分の考えを言葉にして伝え合い、どうしたらよいか考え合う、とても成長を感じた出来事でした。（その後、無事主事さんに凧を取っていただき、皆でお礼を言いました。）

2 月は、劇遊びの会があります。自分の思いを言葉で表現したり、自分なり動物になり切って動いてみたりと、表現遊びを十分に楽しんでいきます。

< 4 歳たんぽぽ組 >

友達っていいな！嬉しくってたまらない！

学級閉鎖が明け、子供たちは友達との再会を大喜びしながら生活を進めています。劇の役決めをしたり、グループが新しくなったりし、友達との関わりも広がりや深まりを見せています。皆で活動する中で、「Aちゃんのここが良かった！」「Bくんってこんなことができるんだね！」と、友達の『いいな』『すごいな』と感じたことを認めよう、伝えようとするのがますます増えてきました。友達に認められることが嬉しくてたまらない様子の子供たち。友達との心の繋がりがそうした会話の中からも感じられるようになってきました。

2 月には、いよいよ劇遊びの会があります。それぞれがのびのびと表現する楽しさや友達と一緒に取り組み、やり遂げた満足感が味わえるようにしていきます。劇遊びの会後には、係の仕事の引継ぎも始まります。年長組との交流を深め、感謝の思いを膨らませたり、進級へ少しずつ気持ちりが向かっていけるように関わったりしていきます。

< 5 歳ばら組・ひまわり組 >

みんなで協力！寒さを吹き飛ばして、幼稚園での思い出をたくさん作ろうね。

1 月はお正月遊びの会、プーク人形劇場など、どれも楽しみましたが、東京藝術大学への訪問では、鑑賞と体験を行いたくさんの学びがありました。藝大の先生の作品を観ながら、どうやって作ったのだろうか、どんな気持ちで作ったのだろうかと思いを膨らませ、作った先生の話聞いて感じたことを出し合ったりして関心を高めていきました。また、木工室でかな削りを体験させていただいたときは、真剣な表情で集中して取り組み、自分で削った木くずを大切な宝物として持ち帰ることもでき、とても満足していました。頭を使ったり、集中したりして過ごした一日は、学びに溢れ、その時間を落ち着いて過ごした子供たちの姿はまるで小学生のようでした。

給食体験や、授業見学なども行い、小学校へ期待が出てきた子供たち。2 月は、学年で協力して保育参観に向けて取り組んだり、年中児へ様々な引き継ぎを行ったりしながら、思い出を増やしていきます。